

【みよし市】校務 DX 計画

「GIGA スクール構想のもとでの校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、校務 DX 計画を次の通り定める。

1 現状について

デジタル庁が公表している「市区町村ごとの校務 DX の取組状況（半分以上がデジタル化）」（令和 6（2024）年 2 月時点）における、みよし市の結果及び愛知県内並びに全国平均の結果は以下のとおり。「欠席・遅刻・早退連絡」及び「校内での情報共有」が 100%となっている一方で、10 項目中 6 項目が全国平均を下回っていることが分かる。

		みよし市	県内平均	全国平均
教員と保護者間の連絡のデジタル化	欠席・遅刻・早退連絡	100%	76%	58%
	お便りの配信	17%	42%	33%
	調査・アンケートの実施	17%	52%	51%
学校内の連絡のデジタル化	校内での資料共有	67%	63%	67%
	校内での情報共有	100%	71%	72%
	調査・アンケートの実施	50%	55%	58%
教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化	各種連絡事項の配信	17%	25%	23%
	調査・アンケートの実施	42%	37%	45%
その他	FAXの原則廃止	0%	2%	4%
	押印・署名の原則廃止	25%	21%	13%

2 各種システムの導入・利活用と今後の活用について

(1) 教員と保護者間の連絡のデジタル化

平成 19（2007）年度「きずなネット」を導入し、教員等と保護者間の連絡（保護者からの出欠連絡や学校及び教育委員会からのお知らせ等）のデジタル化を行った。欠席連絡等はデジタル化が進んでいる一方、お便りの配信や調査・アンケートについては、紙での実施をしている割合が高いため、今後はさらなる利用率の向上に向け周知を行っていく必要がある。モデル案を市内で共有し、原則デジタル化の実施を促進する。

(2) 学校内の連絡のデジタル化

平成 25（2013）年 10 月より導入した校務支援システム「C4th」を導入し、令和 6 年度学校ネットワーク更新と平行して文書受理発送・決裁・提出の電子化を開始し、デジタル化を進めている。また、クラウドツールの利用について、情報分類に基づく利用を促進する。

令和 11 年度に実施予定の学校ネットワーク更新時には校務支援システムのクラウド化を目指し、全国の先進自治体の事例収集と学校現場の意見聴取しながら、仕様作成及びシステム設計、調達事務等を進める。

(3) 教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化

クラウドツールの活用、学習 e ポータルの活用により、連絡等のデジタル化についてモデル案を

市内で共有し、教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化を促進する。

(4) その他

ア ファックス及び押印の原則廃止

ファックス及び押印の原則廃止を令和6年度及び令和7年度中に検討し、令和7年度後半には学校・市間では法律で定めるもの以外での使用を行わない方針とし、様式や運用を改める。学校内での決裁行為も可能な限り校務支援システム上で行い、クラウドツールの利用にて意思決定者の承認が取れる体制を教育委員会から学校へ案内・推進を行う。

イ ペーパーレスの推進

クラウドツールを活用したペーパーレスの方法について、全教職員が閲覧可能なところに手引きを掲載し、ペーパーレスの推進を教育委員会から発信して実施していく。